

## 今冬の需給見通しについて

平成25年11月1日

関西電力株式会社

この冬の需給見通しについては、国の電力需給検証小委員会において検証が進められ、その結果を踏まえ、本日の「電力需給に関する検討会合」において、全国大の需給対策が取りまとめられました。

当社管内のこの冬の需要は、平成23年度並みの厳寒を想定した場合でも、引き続き、無理なく継続してご協力を賜ることが期待できる節電として、101万kW（平成22年度の冬季最大電力の3.8%）を織り込むこと等により、最大電力は2,576万kWと想定しています。

一方、供給力は、設備更新を行い、営業運転を開始した姫路第二発電所の新1号機と、現在、試運転中の新2号機、3号機の供給力、さらに他電力からの応援融通等を合わせると、2月で2,655万kWとなり、予備率は、電力の供給に最低限必要とされている3%と見通しています。

また、この冬も、発電所のトラブルなど、不測の事態により、電力需給がひっ迫することも考えられるため、関西広域連合では、10月24日の関西広域連合委員会において着実な節電の実施のお願いが示され、本日、国からも、節電の要請がありました。

当社としても、国ならびに自治体の皆さまと三位一体で検討を進めてきた結果、それぞれの要請内容を踏まえ、本日、この冬の節電のお願いをさせていただきますこととしました。

この冬についても、ご無理のない範囲で、引き続き、節電・省エネにご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

当社としては、今後も引き続き、火力、水力などの供給設備を可能な限り活用しながら、安全・安定運転に万全を期すとともに、停止中の原子力プラントの再稼動に全力で取り組み、お客さまに電気を安全かつ安定的にお届けするという使命をしっかりと果たしてまいりたい所存です。

## 【国の節電要請内容および期間・時間】

要請内容：現在定着している節電の取組が、国民生活、経済活動等への影響を極力回避した無理のない形で確実に行われるよう、節電を要請する。

※需給見通しにおいて、節電の定着分（平成22年度最大電力比▲3.8%：関西電力管内）を見込んでいる。これらは節電を行うに当たっての目安となる。

期間・時間：平成25年12月2日（月）～平成26年3月31日（月）までの平日9時～21時（ただし、12月30日（月）及び31日（火）並びに1月2日（木）及び3日（金）を除く。）

以上

別紙：今冬の需給見通しについて